

第1学年算数科

「先生たちの困り事を解決し隊！ ～おおきさくらべ（1）～」

学習指導者 井下 修一

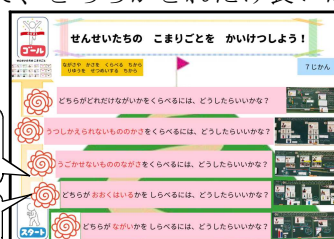
単元の概要

長さに関する困り事を解決する中で、数学的活動の楽しさを味わった後、いろいろな先生の困り事を提示することで、「先生たちの大きさ比べの困り事を解決しよう」という単元の目標を設定した。直接比較や間接比較、任意単位による測定を行い、本学習が身近な人の役に立つことを感じながら、「別の物にうつす」や「同じ大きさの物の幾つ分で比べる」など測定の基礎となる考えを養っていった。

課題設定

前時の板書や補助黒板を基に前時の学習を振り返る場を設定することで、どちらがどれだけ長いかわくるときは「同じ大きさの物の幾つ分」で考えることが大切だったことを確かめた。そして、本時の困り事である「どちらのペットボトルがどれだけ多いかな」と提示し、今までと違うところを問うことで、これまでの学習との違いを見付け、課題を設定した。

前のかさの勉強と違って「どれだけ多いか」を調べないといけないな。
今日は長さではなくて、かさだね。



どちらがどれだけ多いか調べるには、どうしたらいいかな

解決の見通し

前時の板書や数学的な表現方法を蓄積した算数アイテムの一覧などを掲示し、「今日の困り事を解決するために、使えそうなことはあるかな」と問いかけることで、今までと同じように使えそうなことを考えて解決の見通しをもった。その際、実際にコップに水を移しながら確かめたいという思いを高め、大小2種類のコップを使っていくことを確かめた。

今まで「実際にやってみる」とできたから、今日も同じようにしよう。
前の授業みたいに、別のコップに水を入れたら比べられそうだ。



解 決

4人グループで二人ずつ分かれて測定できるようにすることで、グループの仲間と話し合っコップを選択し、全て同じ大きさのコップを使ったり、同じ大きさのコップを一対一対応したりして考える姿が見られた。また、条件を変えて別の物のかさや複数の物のかさを比較する中で、「同じ大きさの物の幾つ分」で考えると、数で比較できるよさに気付いていった。

緑が3杯と半分で、黄が2杯と半分だ。黄が大きいコップ1杯分多いね。
同じ大きさのコップを使うと、どれだけ多いかが分かりやすいね。



振り返り

「まとめがはっきりしたら、次はどんなことを振り返ったらよかったかな」と問いかけることで、「分かった理由を振り返る」という方法を想起できるようにした。数名の子供に分かった理由の発表を促してモデルを示すとともに、解決する方法を使いながら友達と学び合う様子を写真を使って具体的に伝えることで、自分の学び方を振り返って、そのよさに気付く姿が見られた。



考察（○：成果、▲：課題）

- 先生たちの困り事を解決するという目標に向けて、意欲的に数学的活動に取り組む姿が見られた。二種類のコップを使えるようにすることで、考えのずれが生まれ、単位をそろえる意識が生まれた。
- ▲ 活動前に比較方法を話し合う場を設定すれば、どの子供も単位をそろえる意識をもって活動できたのではないか。3杯半と2杯半を比べて、どれだけ違うか比べるのは1年生には難しかったのではないか。

